

校友会本部総会に参加して

大野 陽子（高41回）



平成22年度の校友会本部総会が7月10日に開催され、東京支部から佐久間支部長をはじめ上野幹事長、伊藤副幹事長、祖父江幹事に加え、私も参加の機会をいただきました。

当日は昭和14年卒業生から、平成21年に卒業された現役大学生2名を含む約280名の同窓生で会場は埋め尽くされ、会場の「やすね」は厳粛なムードに包まれた中、開会。まず平成21年度の活動・会計報告などの後、校舎改築記念事業実行委員会事務局の佐藤事務局長からこの11月に竣工式が行なわれるセミナーハウス「第一義館」の進捗状況とともに「5年以内に甲子園出場を！」といった頼もしいお話もいただきました。総会当日はちょうど新潟県高校野球県予選開会式でテレビで後輩達の立派な入場行進を観ていたので、そのお言葉を“確信”として伺いました（一年目の今年度は春の北信越地区県大会でベスト4と健闘）。

また東京支部を代表して佐久間支部長からは図書券を、東京六華会からは昨年度スポーツで活躍された現役生に対するメダルを若山校長先生に贈呈されると会場からは、ひと際大きな拍手がありました。

今回は『雪椿』の取材を兼ねての帰郷でしたが、続く懇親会では、取材内容を知った方がその専門分野の方を会場内でご紹介いただくといった、うれしいハプニングもありました。その思いやりと行動力、また多分野において活躍される先輩達に高田高校の“強さ”をあらためて感じました。私自身嬉しかったのは、恩師の方々も同窓生として参加されていたことで、今回は同じ高田高校の同窓生そして社会人としてお話しさせていただくことが出来ました。

それにしても、これほどまでに「校友会」組織がしっかりしている高校というのは、私の周囲では聞いたことがありません。これはまさしく、これまでの先輩方のご尽力があつてからこそだと痛感します。これまでの校友会の歴史を大切にしつつ、新しい世代にも「校友会」を通しての「つながり」の大切さを、「本部」「東京支部」ともエリアや世代を越えて伝えていかなければと思います。今回このような機会を与えていただいたことに感謝するとともに、微力ながら校友会のさらなる活発化に携わっていきたく、今回本部総会に参加してこれまで以上に強く感じました。